

或問

第26号
墨海書館

編集後記

『或問』第26号をお届けします。論考が9編、翻訳と資料が1編ずつ収められています。内容的には歴史学、言語学、文学、芸術交流史に分かれています。寄稿された皆さん、ありがとうございました。

表紙は、24号、25号に続き、26号も人物写真を使用しています。日本と中国の博物学の啓蒙者、田中芳男と李善蘭です。

李善蘭は数学に長けていて、墨海書館に加わった後、韋廉臣、艾約瑟に協力し、『植物学』（1857）を訳出しました。一方、動物学に関しては、ホブソン（合信）の『博物新編』（1855）の第3巻でキリンなどが絵付きで海外の「奇獣」として紹介されただけで、西洋書の翻訳が長らくなかったのです。そんな中、『遐邇貫珍』（1853-1856）に執筆者不明の「生物総論」が連載されました。この後に日本の動物学術語に大きな影響を与えた記事について邢鑫君が立派な論考を送ってくれました。

26号はまた徐克偉君が翻訳した蘭学資料『和蘭医事問答』を掲載しました。建部清菴と杉田玄白の往復書簡です。面識のない2人は手紙の中でオランダ医学、オランダ医学書の翻訳を真剣に議論したことが窺えます。江戸時代の知識の伝播ないし翻訳態度を知る上で貴重な資料で、中国の医学史研究者の目に止まれば幸いです。

原稿の編集を終えたのは、クリスマスも近づいた日です。寒い日が続いていますが、暖かい春はそう遠くないでしょう。東アジアの大地に穏やかな春の日が待ち遠しい。

次号は6月の締め切りとしたいです。皆様のご寄稿を心待ちにしております。

第26号編集担当：沈国威（2014.12.25）

執筆者一覧

松浦 章（関西大学）

Rune Svarverud（魯納）（University of Oslo）

王 敏東（台湾科技大学）

陳婷・呂凌峰（中国科学技術大学）

邢 鑫（北京大学）

郭 楠（関西大学）

陳 維（関西大学）

許 雪華（北京外国語大学）

孫 芸鉞（北京外国語大学）

徐 克偉（関西大学）

賀 楠（関西大学）

沈 国威（関西大学）

或問 第26号 2014年12月25日発行

WAKUMON No.26 (2014.12)

編集・発行：

近代東西言語文化接触研究会

代表者 内田慶市

E-mail: keiuchid@pp.iij4u.or.jp

<http://www.pp.iij4u.or.jp/~keiuchid/>

編集 沈 国威

E-mail: shkky@kansai-u.ac.jp

<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~shkky/>

事務局：関西大学 文学部 内田研究室

ダイヤルイン 06-6368-3268

564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

郵便振替

口座番号：00950-4-314791

口座名称：近代東西言語文化接触研究会

発行 白帝社

171-0014

東京都豊島区池袋2-65-1

Tel. 03-3986-3271

印刷 遊文舎

頒価 1,500円